

別寒辺牛



2023年11月発行
NO.43

厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助制度とは？

厚岸町では厚岸湖、別寒辺牛湿原、ほか町内の自然環境を次世代へ引き継いでいくため、専門分野の学生や研究者に支援をしています。
今回も、この制度を活用した研究の一部をご紹介します。



有剣ハチとは

腹部に針を持つハチ科の昆虫で、有剣類にはスズメバチやアシナガバチ、アリなど多くの種類があり、その生態は多様で、植物の受粉を助けたり害虫を減らすなど生態系バランスの維持に対して重要な役割を担っています。

有剣ハチの生態調査

生態系バランスを維持していく上で有剣ハチの生態を詳しく把握することは重要なことですが、厚岸町の環境は多様な側面を持っているため、生息している植物や気候、立地などから把握することは難しい状況です。

そのため、この研究では実際にハチを採取して、その数や種類から厚岸町に生息するハチの生態を調査しました。

調査方法と結果

厚岸町内の各所に、ハチの性質（特定の色に引き寄せられる）を利用した罠を仕掛け、約300個体60種のハチを採取しました。

採取したハチをクラスター解析と呼ばれる手法により特徴を調べた結果、次のことがわかりました。

①森林や湿原で採取したハチ

天然林や湿原で採取したハチは、数や種類が均一に生息しているため、これらは環境の変化に強い状態であるといえます。

もし、何らかの要因で一時的にハチが減少しても元の状態に戻りやすいです。

しかし、人工林で採取したハチの数は天然林や湿原と変わらないものの種類に偏りがあるため、ハチの数が減少した時は、元の状態に戻りづらく絶滅してしまう可能性があります。

②生息しているハチの構成

採取したハチの種類の構成から、高山特有の種は確認されず、他の低地と類似していないことから、厚岸町に生息しているハチは厚岸町特有の種構成をしているといえます。



▲採取をした人工林(写真左)、天然林(写真中央)、湿地(写真右)

まとめ

天然林と湿原で数や種類が多いことから、生態系のバランスを保つためにはこれらの環境を保持していく必要があります。また、厚岸町の生態系を解明していく上で、厚岸町のハチの種構成がなぜ特有のものとなったのか調査をしていく必要があります。

九州大学大学院の上森教慈氏による『別寒辺牛湿原の高層湿原における有剣ハチ群集の構造解析』より報告書などの本文は、水鳥観察館のホームページで見ることができます

厚岸町に生息する有剣ハチの生態について
厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励金の研究事例を紹介します